

SAPIENTIA

英知短期大学 英知大学 聖トマス大学 我が母校の碑

我が母校は故田口芳五郎枢機卿(1902-78)(当時司教)によって創立された。

その「建学の精神は、その名が示すように、『英知』(Sapientia)である。すなわち、大学は学問の研究における人間形成をめざすものであるが、これが英知なくして行われたいという世界観に立つものである。学問の研究は真理の探究と獲得であり、この努力は真理の存在を前提とするものである。英知は学問研究の原動力であり、またいっさいの学問は窮極において英知のうちにいこうのである。すべての人間は真理の前に平等であるということ英知は教える。ここにキリスト教的ヒューマニズムの基礎が存在する。学問研究において学生は、平等な真理探究者として尊重される。」我が母校は、「このような建学の精神のもとに、西洋の文化と思想を研究し、これによって人間の完成に資そうとするものである。」 「創立50周年記念誌」より抜粋



Alma Mater

我が母校 この美しき言葉を美しくたらしめよ



沿革

1962年4月	学校法人百合学院が英知短期大学宗教科創設・開学	2007年4月	大学名称を英知大学から聖トマス大学へ変更
1963年4月	英知大学神学部創設・開学	2008年4月	人間文化共生学部を開設
1964年4月	英知大学文学部設置	2010年11月	ローリエット・エデュケーション・アジア・リミテッドが学校法人英知学院を引き継ぐ
1967年3月	神学部廃止	2012年3月	文学部廃止
1970年4月	学校法人百合学院から学校法人英知学院設立・移管	2015年3月	聖トマス大学閉学
1974年3月	英知短期大学廃止	2015年10月	尼崎市へ寄贈「学びと育ちを支援する」市の施設として活用することを決定
1996年4月	大学院人文学研究科博士課程開設		

かつて、ここ尼崎市若王寺の地に「カトリック精神に基づき、真理にいたる英知と力をそなえ、自立した人間を育成すること」を建学の精神にした大学があり、10,000人余りの若人が学び、社会へ巣立っていきました。大学は2015年閉校になりましたが、当大学が尼崎市の文教の中心となり、大きな役割を担ってきた証としてこの碑を建立します。

サピエンチア会(同窓会)、卒業生、及び関係者のご寄付により建立 2016年11月3日